

科学研究費助成事業（基盤研究（S））公表用資料
〔令和4（2022）年度 中間評価用〕

令和4年3月31日現在

研究期間：2020年度～2024年度
課題番号：20H05631
研究課題名：経済停滞と格差拡大：世界経済の危機と統一マクロ理論の構築

研究代表者氏名（ローマ字）：小野 善康（ONO Yoshiyasu）
所属研究機関・部局・職：大阪大学・社会経済研究所・特任教授（常勤）
研究者番号：70130763

研究の概要：

動学マクロ体系に家計の資産選好を導入し、多くの先進国経済が直面する低成長、バブル、格差拡大などの多様な問題を統一的に取り扱える新たな理論体系を構築する。また、資産選好の性質をアンケート調査、実験、実証によって調べるとともに、理論の現実妥当性を検証する数値解析を行う。さらに、消費を刺激し、遊休資源を活用するための政策や制度設計をマクロ・ミクロ両面から考える。

研究分野：社会科学、経済学、理論経済学

キーワード：長期不況、資産選好、格差拡大、行動経済学、経済実験、制度設計理論

1. 研究開始当初の背景

近年、多くの先進国が低成長、資産価格高騰、マイナス金利、格差拡大などの問題に直面している。従来のマクロ経済学では、個々の問題に別々の市場の歪みを導入して分析しているため、政策対応も個別の歪み除去や緩和政策が中心であった。しかし、2008年の世界金融危機以降、先進諸国で偶然、これらの歪みが同時発生したとは考え難く、その除去や緩和を目指す政策対応も思うような効果を上げていない。そのため、従来の理論を特殊ケースとして含みながら、先進国が直面する多様な経済問題を統一的に取り扱える新たな理論体系の構築と、そこから得られる政策の提言が急務となっている。

2. 研究の目的

動学マクロ理論体系に家計の資産選好を導入することにより、近年、先進諸国の経済が陥っている上記の諸問題を統一的に取り扱うことのできる新たなマクロ理論体系を構築し、それらを解決するミクロ・マクロ政策の提示と制度設計を行う。そのために下記のサブプロジェクト（①～③）を設定する。

① 資産選好に注目した新しいマクロ経済理論体系の構築とシミュレーション：資産選好を動学マクロモデルに組み込み、消費低迷、バブル、格差拡大などが発生することを明らかにする。さらに、数値解析を行い、現実経済への妥当性を検証する。

② 資産選好のアンケートと経済実験による分析：大規模アンケート調査により、各家計の資産保有量と資産選好の強さとの関係を明らかにする。また、資産選好を経済実験によって検証する。

③ 消費低迷下の製品開発と資源配分のための制度・組織設計：消費低迷への対策として、資産選好を抑え消費選好を刺激するための新製品開発促進策を検討するとともに、消費低迷下で余った生産資源の有効活用を促すための制度・組織設計を行う。

3. 研究の方法

上記のサブプロジェクトごとに研究方法を示す。

① 資産保有選好をもつ家計の動学最適化行動をマクロモデルに組み込み、経済の豊かさとともに変化する消費と資産への相対的選好の特性を調べる。それにより、資産選好の性質から、従来のマクロ経済学が説明してきた経済成長理論の帰結だけでなく、近年、先進諸国が直面している消費低迷、資産価格高騰、格差拡大、マイナス金利などの諸問題までを整合的に説明できる、新しい統一マクロ理論体系の構築を目指す。また、それを使って、これらの問題を総合的に解決するための経済政策を提示する。

さらに、下記サブプロジェクト②のアンケート調査や経済実験の結果を得て設定するパラメーターをもとに、資産選好がもたらす動学経路への影響の数値解析も試みる。

② 理論の構築とともに行動経済学の立場から、資産選好の程度や特性を推計する。大規模アンケート調査と経済実験を行い、実際の人間が持つ資産選好の様々な特徴を定量的に明らかにする。

過去に社会経済研究所が実施したパネル調査の対象者に継続依頼する。大規模アンケートでは、特に金融資産の保有状況や消費の内訳など、ストックとフローの行動を家計の属性と結びつけながら詳しく調べる。さらに、資産選好を持つ理由を明らかにするために、因果関係を明確にする経済実験を行う。

③ 資産選好による消費低迷がマクロ経済の停滞を招いている状況下で、消費を刺激するために有効なミクロ経済政策をイノベーション・産業組織論の視点から明らかにする。同時に、メカニズムデザイン理論の手法を用いて、消費を刺激する製品イノベーションの促進や、低成長下で有効活用されていない資源の活用のための制度設計を行う。

4. これまでの成果

- (1) 一国の中央と地方で景気状況がいろいろな組み合わせにある場合を考え、地方への各種補助金が地方と中央の景気に及ぼす効果を明らかにした。
- (2) 好況と不況の下で、環境規制が景気に与える効果を比較し、前者では環境規制が消費を引き下げるが、後者では新規雇用を作って消費を拡大し景気を刺激することを示した。
- (3) 資産価格の確率的崩壊による資産選好の変化が景気変動を生む経済を考え、景気の悪化は急激だが回復は当初緩やかで徐々に加速すること、資産価格の崩壊頻度が低いと景気回復が早いことを示した。
- (4) 本研究のこれまでの成果を研究者とともに政策担当者や一般読者にも公表するため、成長段階から停滞への変遷、格差拡大、バブルなどの様々な現象が、資産選好の視点から統一的に説明できることを示す本を出版した。そこでは経済の変遷に伴い、財政金融政策や生産性向上などの経済効果が変化し、正反対にさえることを示すとともに、経済の各段階における政策の基本的な考え方を整理して提示した。
- (5) 現在、プロダクトイノベーションの多くは情報産業で起きており、多くの場合、企業合併を伴う。そこで、情報産業における合併を消費者データの性質に関連させて分析した。
- (6) 資源配分の非効率化は、多くの場合、協力の失敗によってもたらされる。参加者間の自発的な金銭の移転によって、協力の失敗が軽減されることを経済実験によって示した。
- (7) 遊休資源活用の制度設計として、多数財オークション・モデルにおける最小競争価格の理論的性能を調べた。また、理論結果の現実妥当性を高める方策を考え、その効果を経済実験により検証した。
- (8) 制度・組織の設計において、情報伝達は効率的資源配分の実現を左右する。従来、いくつかの限定された条件の下で分析されていた情報伝達の効果を、より一般的な状況で分析した。

5. 今後の計画

- (1) 労働市場の不完全性が引き起こす失業と、資産選好に起因する総需要不足が生み出す失業とが併存する経済を考え、財政金融政策などのマクロ的要因と労働市場の取引費用などのミクロ的要因がそれぞれのタイプの失業と景気全般に及ぼす効果を理論的に分析し、数値解析を行う。
- (2) 一定の生産性上昇が続く成長経済モデルに家計の資産選好を導入し、経済が完全雇用から総需要不足に陥って長期化することを確かめる。さらに、日米経済に当てはめた数値解析を行い、生産性上昇率や貨幣政策の変化が成長から停滞に移る時期や動学経路の形状に及ぼす影響を調べる。
- (3) 資産選好が資産価格のバブルを引き起こす可能性を理論的に探る。
- (4) 消費効用に影響を与える新製品開発が景気を刺激する可能性があるか否かを理論的に分析する。
- (5) 大規模アンケートを使って資産保有と消費との関係を調べ、資産保有の増加に伴う消費と資産の相対選好の変化を探る。豊かなほど資産選好が強いなら、豊かな経済の消費低迷や格差拡大が説明できる。
- (6) イノベーション・産業組織論の視点から、資産選好による消費低迷がマクロ経済の停滞を招いている状況下で、消費刺激のためのミクロ経済政策を明らかにする。
- (7) 低成長下での遊休資源活用のための制度設計を行い、その理論的性能を経済実験により検証する。
- (8) 経済実験により、資産選好や地位選好が資産価格等に与える影響を検証する。

6. これまでの発表論文等（受賞等も含む）

Hiroshi Kitamura, Noriaki Matsushima, Misato Sato, “Defending home against giants: Exclusive dealing as a survival strategy for local firms”, *Journal of Industrial Economics*, forthcoming, 2021.

Ines Macho-Stadler, Noriaki Matsushima, Ryusuke Shinohara, “Organizational structure and technological investment”, *Journal of Industrial Economics*, Vol.69, No. 4, 2021.

Ryo Kato, Tatsushi Okuda, Takayuki Tsuruga, “Sectoral inflation persistence, market concentration, and imperfect common knowledge”, *Journal of Economic Behavior & Organization*, Vol.192, 2021.

Chia-Hui Chen, Junichiro Ishida, Wing Suen, “Signaling under Double-Crossing Preferences”, *Econometrica*, forthcoming, 2021.

Takehito Masuda, Ryo Mikami, Toyotaka Sakai, Shigehiro Serizawa, *Takuma Wakayama, “The Net Effect of Advice on Strategy-Proof Mechanisms: An Experiment for the Vickrey Auction”, *Experimental Economics*, forthcoming, 2021.

*Masaki Aoyagi, Naoko Nishimura, Yoshitaka Okano, “Voluntary redistribution mechanism in asymmetric coordination games”, *Experimental Economics*, forthcoming, 2021.

*Masako Ikefuji, Yoshiyasu Ono, “Environmental policies in a stagnant economy”, *Economic Modelling*, Vol. 102, September 105574, 2021.

Ryusuke Sakai, *Shigehiro Serizawa, “Strategy-proof mechanism design with non-quasi-linear preferences: ex-post revenue maximization for an arbitrary number of objects”, *Social Choice and Welfare*, forthcoming, 2021.

小野善康『資本主義の方程式-経済停滞と格差拡大の謎を解く』中公新書 2679, 2022年。

7. ホームページ等

<https://www.iser.osaka-u.ac.jp/S-Theory2020/>